

# 2023年3月期第2四半期 決算説明資料

2022年11月7日



本資料の如何なる情報も、弊社株式の購入や売却などを勧誘するものではありません。また、本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社は一切責任を負うものではありません。



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

ただいまより、太陽ホールディングス株式会社2023年3月期第2四半期決算説明会を開始いたします。  
本日はお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございます。

## 当社グループの報告セグメント

### エレクトロニクス事業 (エレキ事業) ※1

PWB用部材を始めとする電子部品用  
化学品部材の開発・製造販売及び  
仕入販売



※1 第1四半期連結会計期間より、「電子機器用部材事業」の名称を「エレクトロニクス事業」に変更しました。  
変更はセグメントの名称のみであり、セグメントを構成する子会社に変更はありません。

### 医療・医薬品事業 (医薬事業)

医療用医薬品の製造販売・製造受託



### その他事業

自然エネルギーによるエネルギー事業、  
食糧事業、染料、顔料等の化学品の  
ファインケミカル事業及びICT事業等



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

2

当社グループの報告セグメントになります。  
エレクトロニクス事業、医療・医薬品事業、その他の事業の3つの事業に分かれております。  
エレクトロニクス事業は、ソルダーレジストが主力の事業となります。  
医療・医薬品事業は、医療用医薬品の製造販売・製造受託の2つの事業がございます。  
その他事業は、太陽光発電を中心としたエネルギー事業、食糧事業、ファインケミカル事業、ICT事業等が含まれる事業となります。

## 2023年3月期2Q トピックス

### エレキ 事業

- 売上高は、前年同期比で11%増加
  - 営業利益は、前年同期比で24%増加
- 主要因
- 円安に推移したことにより増収増益に寄与  
当期中平均為替レート：1米ドル133.5円  
前年同期期中平均為替レート：1米ドル110.2円
  - PKG：DF製品の販売数量は過去最高水準を維持
  - リジッド：中国市場を中心とした需要の低下により販売数量が減少

### 医薬 事業

- 売上高は、前年同期比で5%増加
- 主要因
- 製造受託事業のプロダクトミックス変化による増加
  - 新型コロナウイルス感染症の感染拡大および他社同効薬等の限定出荷等に伴う需要の増加
  - 適応拡大および医療上の必要性からの需要の増加等による販売数量の増加
  - 長期収載品の薬価改定による販売単価の下落

### 全社

- TCFD提言に基づく情報開示
- 自己株式の取得（2022年7月1日～2022年9月30日）  
取得株式数：228,000株 株式取得総額：約626百万円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

3

2023年3月期第2四半期のトピックスになります。

エレクトロニクス事業においては、売上高が前年同期比で11%増加、営業利益24%増加となりました。

主な要因としては、為替の影響により増収増益となりました。

販売数量は、PKG基板用部材のDF製品が前年同期で増加となりましたが、リジッド基板用部材が前年同期比で減少となりました。

医療・医薬品事業においては、売上高が前年同期比で5%増加となりました。

主な要因として、製造受託事業のプロダクトミックス変化により売上高が増加しております。

なお、この事業に関しては為替の影響を受けない事業となります。

全社においては、後程TCFD提言に基づく情報開示がございます。

自己株式の取得は順調に実施しており、9月末末時点で約6億円取得しております。

## 連結業績

### 連結業績サマリ

単位：百万円

	① 2022年3月期 上半期 実績	② 2023年3月期 上半期 実績	②-① 前年同期比	(②-①)÷① 増減率	③ 2023年3月期 4月28日発表 上半期 業績予想	②+③ 進捗率	④ 2023年3月期 4月28日発表 通期 業績予想	②+④ 進捗率
売上高	48,348	52,795	4,446	9%	55,600	95%	109,400	48%
営業利益	9,301	10,548	1,247	13%	10,400	101%	19,000	56%
経常利益	9,505	10,203	698	7%	10,400	98%	18,800	54%
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,717	7,489	771	11%	7,200	104%	12,800	59%
円・USDレート	110.2	133.5	23.3		120.0		120.0	
EBITDA	13,197	14,511	1,314	10%	14,400	101%	26,900	54%
営業利益率	19%	20%			19%		17%	
EBITDA マージン	27%	27%			26%		25%	

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

 太陽ホールディングス

4

連結の業績になります。

売上高は527億円(前年同期比9%増加)となりました。

主な要因としては、為替の影響となります。

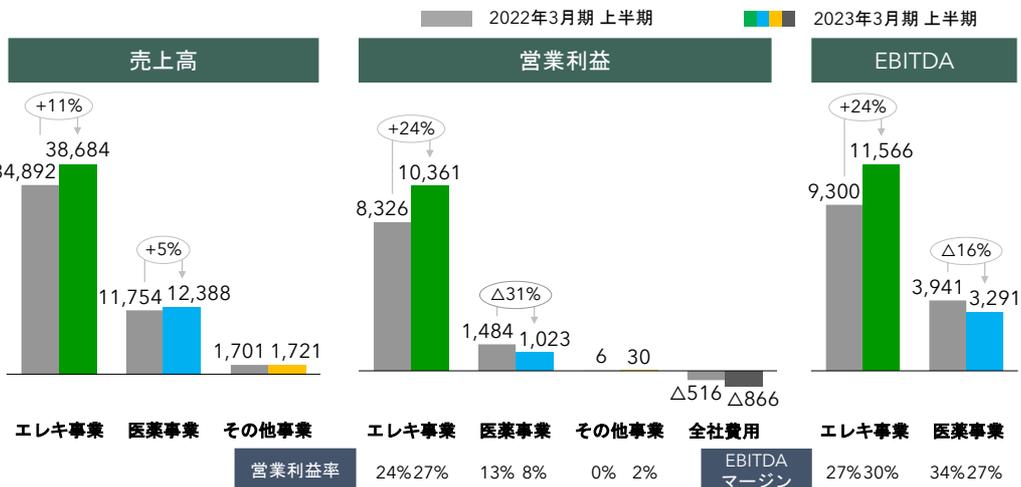
営業利益は105億円(前年同期比13%増加)、経常利益は102億円(前年同期比7%増加)となりました。

上期業績予想の売上高は556億円(進捗率95%)で若干の未達、営業利益104億(進捗率101%)、経常利益104億(進捗率98%)で凡そ達成となりました。

通期業績予想は修正しておらず期初に開示した売上高1,094億円、営業利益190億、経常利益188億円を据え置いております。

## セグメント別業績

### セグメント別売上高・営業利益※1・EBITDA※1 単位：百万円

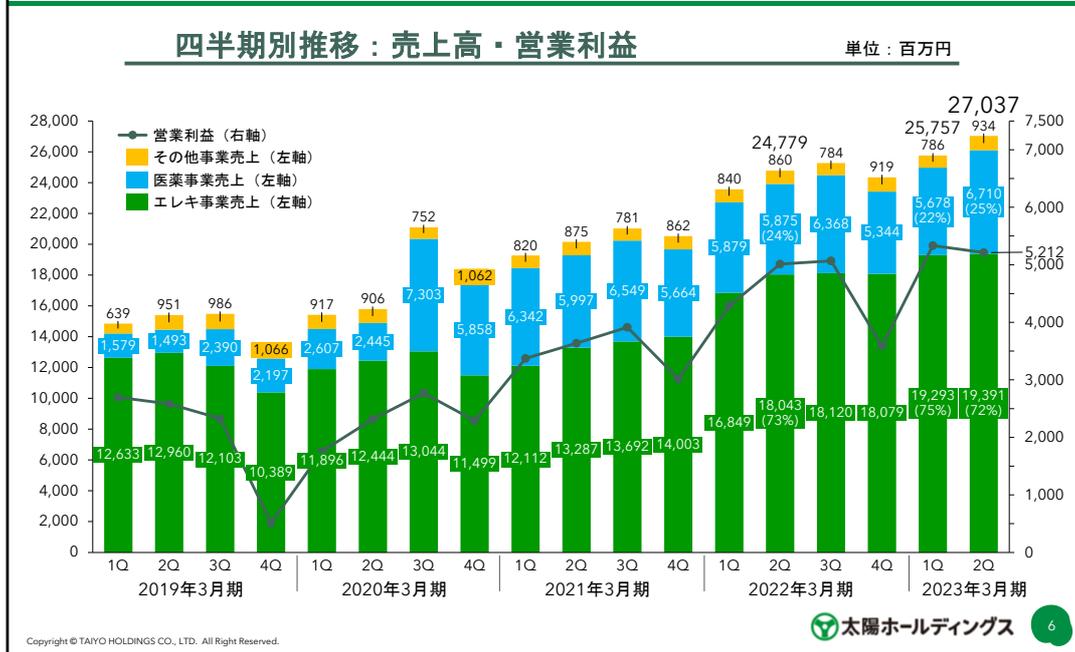


※1 第1四半期より、従来は全社費用に含めていた一部の研究開発に関する費用を各報告セグメントに配賦しています。  
 なお、前第2四半期のセグメント利益及び損失、EBITDAについても第2四半期と同様の配賦方法により算定しているため、過去の開示数値と差異が生じています。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

セグメント別の売上高・営業利益の業績になります。  
 エレクトロニクス事業においては、売上高386億円(前年同期比11%増加)、営業利益103億(前年同期比24%増加)となりました。  
 医療・医薬品事業においては、売上高123億円(前年同期比5%増加)、営業利益10億円(前年同期比31%減少)となりました。  
 EBITDAもエレクトロニクス事業と医療・医薬品事業の数値を開示しておりますので、参考までにご確認ください。

## 四半期別推移



四半期別の売上高の推移になります。

前期と比較し増収傾向にはございますが、主な要因が為替の影響による増収となりまして為替の影響を除くと前期と同等の売上高規模であると考えております。

## BSの概況

### BS前期比較

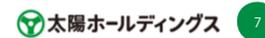
単位：百万円

	22/3末	22/9末	増減		22/3末	22/9末	増減
現金及び預金	51,557	57,278	5,721	支払手形及び買掛金	9,255	8,727	△528
受取手形及び売掛金	27,558	28,329	771	短期借入金 <sup>※2</sup>	29,770	30,255	484
棚卸資産 <sup>※1</sup>	16,384	16,331	△53	長期借入金	48,383	49,336	953
上記以外	3,266	3,440	174	上記以外	16,396	16,710	313
<b>流動資産合計</b>	<b>98,766</b>	<b>105,380</b>	6,614	<b>負債合計</b>	<b>103,806</b>	<b>105,029</b>	1,223
有形固定資産	52,255	55,501	3,245	株主資本	79,916	85,135	5,219
無形固定資産	32,058	30,920	△1,138	その他の包括利益累計額	5,549	8,241	2,692
投資その他の資産	6,192	6,607	414	非支配株主持分	1	3	1
<b>固定資産合計</b>	<b>90,507</b>	<b>93,028</b>	2,521	<b>純資産合計</b>	<b>85,466</b>	<b>93,379</b>	7,912
<b>資産合計</b>	<b>189,273</b>	<b>198,409</b>	9,136	<b>負債純資産合計</b>	<b>189,273</b>	<b>198,409</b>	9,136

※1 棚卸資産：商品及び製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品  
 ※2 短期借入金：短期借入金+1年内返済予定の長期借入金

**自己資本比率**                      45.2%                      47.1%                      +1.9%

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.



BSの概況になります。

資産の大きな差異としては、現金及び預金が57億円増加や有形固定資産が32億円増加がございます。

主な要因としては、現金及び預金が借入金の増加、有形固定資産が医療・医薬品事業の新厚生棟の建設や再生医療・遺伝子治療の設備投資となります。

負債・純資産の大きな差異としては、株主資本が52億円増加やその他の包括利益累計額26億円の増加がございます。

主な要因としては、株主資本が利益剰余金の増加、その他の包括利益累計額が為替換算調整勘定の増加となります。

## 2023年3月期 上期業績予想進捗

### 上期業績予想

単位：百万円

	① 2023年3月期 上半期 業績予想 <sup>※1</sup>			② 2023年3月期 上半期 実績 <sup>※2</sup>			②-① 業績予想比			②+① 進捗率		
	連結	エレクトロニクス	医薬	連結	エレクトロニクス	医薬	連結	エレクトロニクス	医薬	連結	エレクトロニクス	医薬
売上高	55,600	41,000	12,600	52,795	38,684	12,388	Δ2,804	Δ2,315	Δ211	95%	94%	98%
営業利益	10,400	10,500	900	10,548	10,361	1,023	148	Δ138	123	101%	99%	114%
EBITDA	14,400	11,700	3,200	14,511	11,566	3,291	111	Δ133	91	101%	99%	103%
営業利益率	19%	26%	7%	20%	27%	8%						
EBITDA マージン	26%	29%	25%	27%	30%	27%						

※1 円・USDレート：2023年3月期上半期業績予想 120.0円

※2 円・USDレート：2023年3月期上半期実績 133.5円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

8

2023年3月期上期の業績予想の進捗になります。

こちらの表では連結の業績に加えエレクトロニクス事業と医療・医薬品事業の業績を分解して開示しております。

連結の業績でお伝えした通り、上期業績予想の売上高は556億円(進捗率95%)で若干の未達、営業利益104億(進捗率101%)、経常利益104億(進捗率98%)でほぼ達成となりました。

## 2023年3月期 通期業績予想進捗

### 通期業績予想

単位：百万円

	① 2023年3月期 通期 業績予想 <sup>※1</sup>			② 2023年3月期 上半期 実績 <sup>※2</sup>			②÷① 進捗率		
	連結	エレクトロニクス	医薬	連結	エレクトロニクス	医薬	連結	エレクトロニクス	医薬
売上高	109,400	80,200	25,100	52,795	38,684	12,388	48%	48%	49%
営業利益	19,000	20,100	1,000	10,548	10,361	1,023	56%	52%	102%
EBITDA	26,900	22,500	5,500	14,511	11,566	3,291	54%	51%	60%
営業利益率	17%	25%	4%	20%	27%	8%			
EBITDA マージン	25%	28%	22%	27%	30%	27%			

※1 円・USDレート：2023年3月期通期業績予想 120.0円

※2 円・USDレート：2023年3月期上半期実績 133.5円

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

9

2023年3月期通期の業績予想の進捗になります。

上期の業績予想と同様の表の構成となっており、また連結の業績でお伝えした通り、通期業績予想値は修正しておらず期初に開示した売上高1,094億円、営業利益190億、経常利益188億円を据え置いております。

エレクトロニクス事業では売上高802億、営業利益201億円、医療・医薬品事業では売上高251億、営業利益10億円を想定しております。

医療・医薬品事業の営業利益の進捗率としては100%を超過しており下期は赤字想定かとお質問をいただきますが、下期においても黒字が達成できるよう経費削減を中心として施策を実施しております。

# エレクトロニクス事業

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

10

エレクトロニクス事業に関する説明になります。

## エレクトロニクス事業

### 用語説明

用語	内容
PWB (Printed Wiring Board)	プリント配線板
SR (Solder Resist)	ソルダーレジスト (レジストインキ)
PKG (Package)	半導体パッケージ
DF (Dry Film)	ドライフィルム

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

エレクトロニクス事業の用語の説明になります。  
PWB、SR、PKG、DFを用語として使用しておりますのでご確認ください。

## エレクトロニクス事業

### 製品分野

分野	分類		性状	用途
PWB用 絶縁材料	リジッド	汎用品	液状	表層保護・絶縁用 SR材料 電子機器用材料
		高機能品	液状/DF	
	PKG		液状/DF	
	フレキ		液状/DF	
	ビルドアップ		液状/DF	
その他 関連商材	その他		液状	マーキング・エッチング・めっき用材料 フラックス・溶剤等・導電性銀ペースト

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

12

エレクトロニクス事業の製品分類の説明になります。

PWB用絶縁材料は、基板の形状に合わせて分類しております。

パソコン等の電気機器を分解すると出てくる緑色の基板がございますが、この緑色の材料がリジッド基板用部材となります。

さらにリジッド基板用部材を汎用品と高機能品に分類しており主に中国を中心に生産しております。

リジッド基板用部材の高機能品の性状にはDF製品がございますが、前期からMini LEDディスプレイ向けに白色DFが業績に大きく貢献しております。

PKG基板用部材は、リジッド基板用部材の高機能品の性状同様、液状製品とDF製品がございますが、近年増加しているのはDF製品になります。

一部地域において液状製品の増加はございますが、液状製品からDF製品に置き換えが起きている状況となります。

フレキシブル基板用部材は、売上高としては液状製品の割合が大きい状況ですが、DF製品を積極的に展開することにより事業規模を大きくしていきたいと考えております。

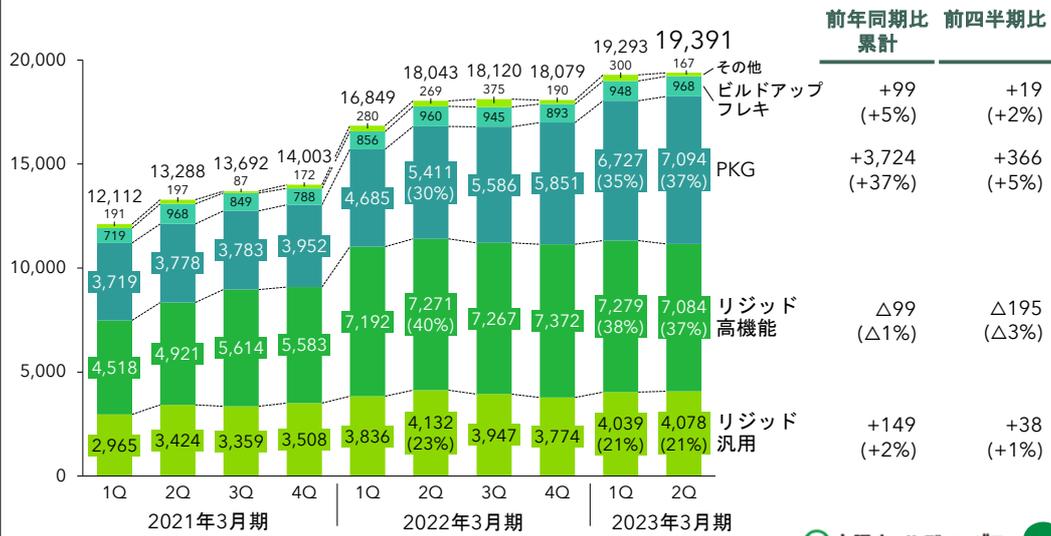
ビルドアップ部材は、スルーホールを充填する穴埋めインキと配線を積層するために使用される層間絶縁材がございます。

その他部材は、マーキングインキや導電材料等がございますが売上高としては小さい規模のものとなります。

## エレクトロニクス事業

### 製品別売上高

単位：百万円



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

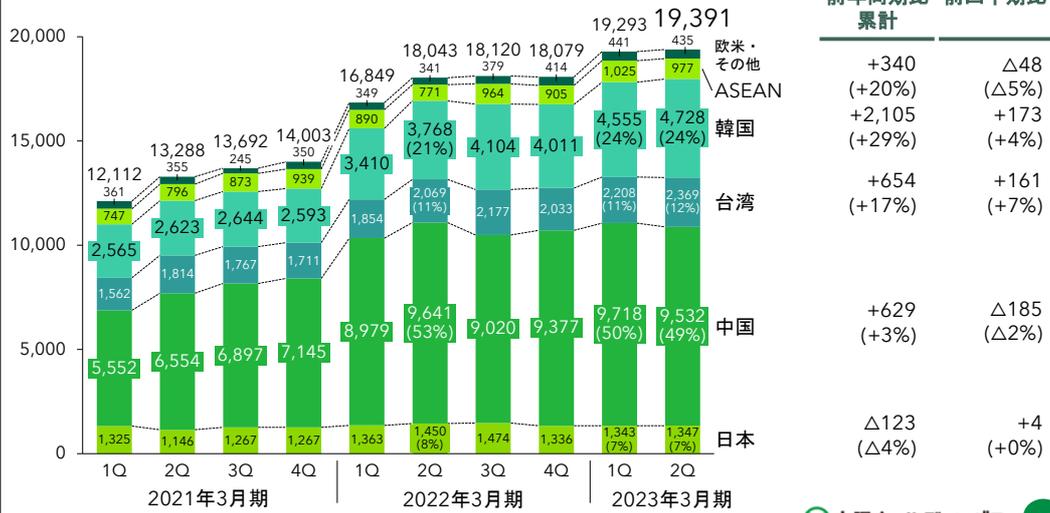
太陽ホールディングス 13

エレクトロニクス事業の製品別の売上高推移になります。  
 リジッド基板用の汎用品は、中国がメインの市場となりますが為替の影響により第1四半期と同等であり、販売数量では前年同期と比較し減少となりました。  
 リジッド基板用の高機能品は、汎用品と同様の状況であり、さらにMini LEDディスプレイ向けの白色DFが前年同期、前四半期と比較し減少しました。  
 白色DFに関しては、今後次世代のタブレットやパソコンに採用されるよう開発・営業に注力しており来期以降増収にできるよう取り組んでまいります。  
 PKG基板用部材は、前年同期と比較しDF製品の販売数量が増加していることや為替の影響により増加となりました。

# エレクトロニクス事業

## 販売地域別売上高

単位：百万円



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス 14

エレクトロニクス事業の地域別の売上高推移になります。  
 中国は第1四半期と比較し減少しており、この市場が復調しない限り当社としては厳しい状況となります。  
 台湾、韓国は第1四半期と比較し増加しておりますが、為替の影響による増加となります。

## 医療・医薬品事業

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

15

医療・医薬品事業に関する説明となります。

## 医療・医薬品事業

### 用語説明

用語	内容
長期収載品	新薬として発売された後に特許期間もしくは再審査期間が終了し、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の販売が可能となっている先発品
CDMO	医薬品製造及び医薬品製剤開発を受託する機関 (Contract Development Manufacturing Organization)
GMP	医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準 (Good Manufacturing Practice)

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

 太陽ホールディングス 16

医療・医薬品事業の用語説明となります。

長期収載品は新薬として発売された後に特許期間もしくは再審査期間が終了し、後発医薬品（ジェネリック医薬品）の販売が可能となっている先発品となります。

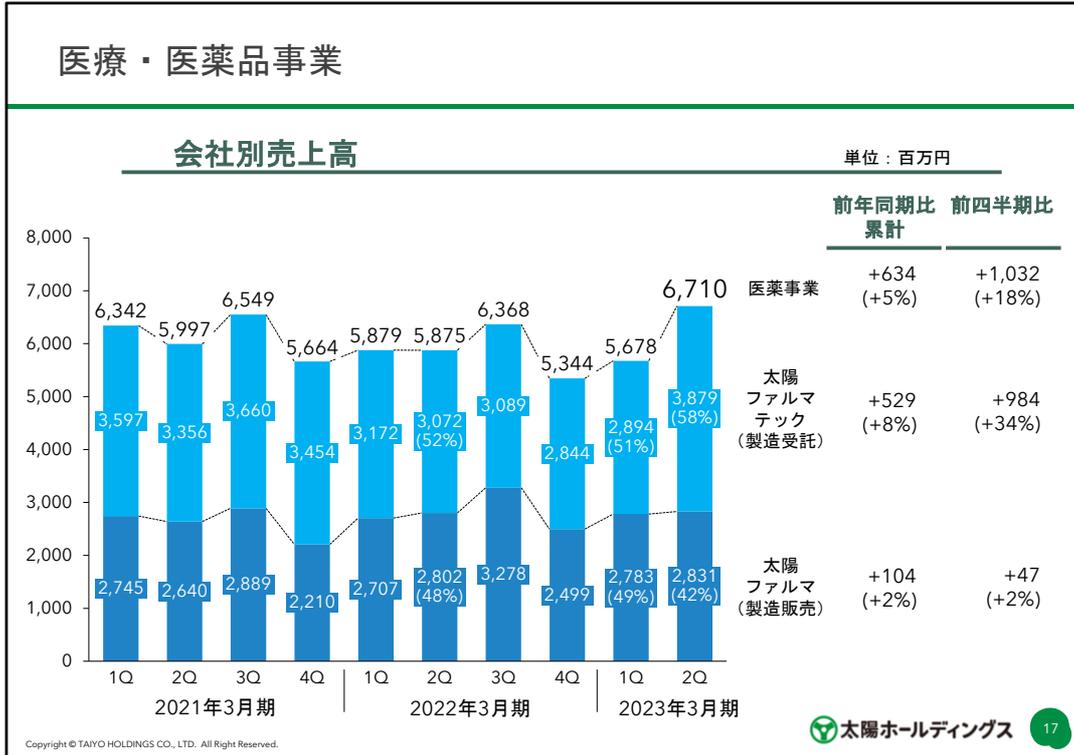
当社は先発品のメーカーから長期収載品を譲受するだけでなく適用拡大等により製品価値を高める取り組みを実施しております。

CDMOは医薬品メーカーから固形錠剤や注射製剤の製造受託を受ける事業となります。

この事業は当社のブランドとして製品を販売することではなく、当社で生産した製品を医薬品メーカーに出荷し、医薬品メーカーのブランドとして販売される事業となります。

GMPは医薬品及び医薬部外品の製造管理及び品質管理の基準となります。

## 医療・医薬品事業



医療・医薬品事業の会社別の売上高推移になります。  
 今期は過去水準と比較し同水準で推移しておりますが、来期まで同様な推移を  
 すると想定しております。  
 製造受託事業の新規受託案件は順調に進めておりますが、売上高として貢献する  
 のは24年3月期の下期以降からと想定しております。



続いてTCFD提言に基づく情報開示について説明させていただきます。  
TCFD提言は22年3月に賛同を表明しており、今回はその情報開示をさせていただき運びとなりました。

## TCFD提言に基づく情報開示

コーポレートガバナンス・コードの改訂では、プライム市場上場会社に対し、TCFDまたはそれと同等の枠組みに基づく開示を要請しており、当社は、2022年3月にTCFDへの賛同を表明しており、TCFD提言に基づく情報開示を行っております。

### TCFDより開示が求められる4項目

**TCFD** TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

開示要求項目	推奨される開示内容
項目1. ガバナンス	気候関連リスク・機会についての組織のガバナンス
項目2. 戦略	気候関連リスク・機会がもたらす事業・戦略・財務計画への実際の及び潜在的影響
項目3. リスク管理	気候関連リスクの識別・評価・管理方法
項目4. 指標と目標	気候関連リスク・機会を評価・管理する際の指標とその目標

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

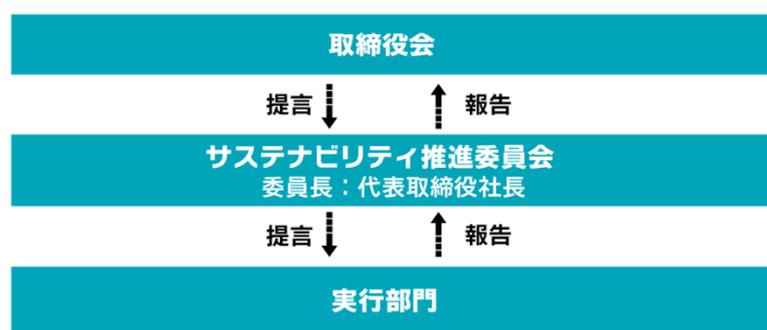
 太陽ホールディングス

19

TCFD提言に基づく情報開示項目となります。  
コーポレートガバナンスコードの改訂に伴い本件の開示が必要となっているため、TCFDより開示が求められた4項目について開示を行っております。

代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会では、重要課題に基づき設定した目標に関する進捗等を全社グループ横断的に議論し、重要な事項は取締役会へ報告し指示を受けることとしています。

## 推進体制



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

TCFD提言に基づく情報開示 ガバナンスの内容となります。  
 今回サステナビリティ推進委員会を設置しており、社長を委員長とする組織を作りました。  
 当社は子会社数が多いため、全社グループで横断的に対応できる様にディスカッションする形で進めて参ります。

## TCFD提言に基づく情報開示 戦略



気候変動に伴うリスクと機会を特定し、今後の当社の事業活動においてリスクの低減および機会を捉え、社会課題の解決につながる製品を開発してまいります。

シナリオ※1	社会環境の変化	リスク	機会	主な対応策
2℃未満シナリオ	各国での炭素税の導入・引き上げ	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国の環境規制に関する情報を収集し、対応策を検討</li> <li>再生可能エネルギーの積極的導入</li> <li>省エネの推進</li> </ul>
	脱炭素社会の進展	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境負荷の低い製品の開発促進</li> <li>次世代モビリティの普及を見据えた製品の開発促進</li> <li>製品の梱包形態の変更促進</li> <li>使用済みプラスチックのリサイクルの推進</li> </ul>
	ステークホルダーからの要請対応	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境への取り組み強化</li> <li>投資家・市場の関心に応える積極的な情報開示およびコミュニケーション</li> </ul>
4℃シナリオ	自然災害の激甚化による工場停止	○	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産拠点の複数化</li> <li>事業継続計画視点でのリスク管理と対応</li> </ul>

※1 気候変動に関する政府間パネル (ICPP) 「第6次報告書」および国際エネルギー機関 (IEA) 「World Energy Outlook 2021」を参照し、エレクトロクス事業を対象としました。

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

TCFD提言に基づく情報開示 戦略の内容となります。

2℃未満シナリオと4℃シナリオがあり、シナリオごとにリスクを機会を記載しております。

当然ながらリスクも多くありますが、当社にとって機会につながる部分もあると考えております。

いくつか事例を挙げさせていただきます。

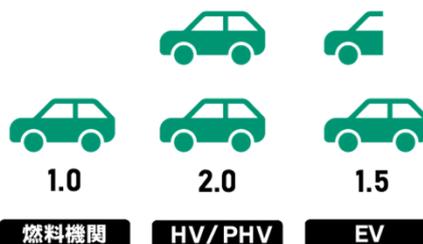
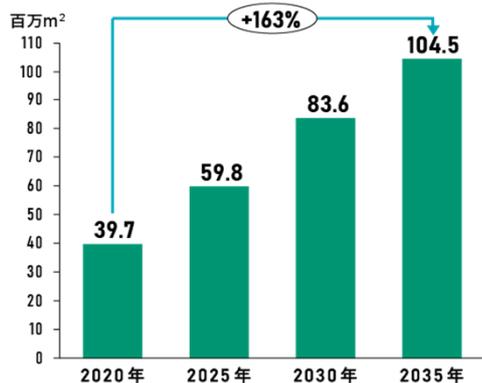
## TCFD 提言に基づく情報開示 機会事例 (1/2)



次世代モビリティの普及による自動車の電動化・電装化に伴い、自動車1台当たりの基板面積増によるソルダーレジストの使用量の増加を当社事業の機会と捉え、更なる開発促進に努めます。

### 車載用基板 販売数量予測<sup>※1</sup>

### 自動車1台当たりの基板面積比<sup>※2</sup>



※1 富士キメラ総研「車載電装デバイス&コンポーネンツ総調査 2022」(2020年は実績、2025年、2030年、2035年は予測)  
 ※2 当社推定値

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

22

TCFD提言に基づく情報開示 機会事例の1点目になります。

いわゆる次世代モビリティと呼ばれる電気自動車などはヨーロッパでは進んでいる分野ですが、電動化・電装化にともなって1台あたりの基板面積が増えて参ります。

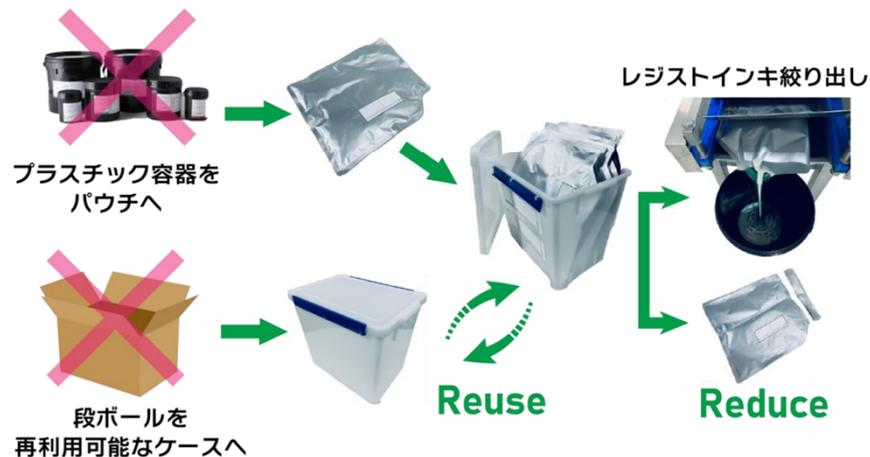
当社のソルダーレジストの使用量も増えていくため、事業機会ととらえて更なる開発促進を行っていきたいと考えております。

電動化だけではなく、自動運転などにおいてもセンサーがたくさん搭載されたり、データのやり取りも増えて参りますので、追い風になると考えております。

## TCFD 提言に基づく情報開示 機会事例 (2/2) TCFD

TASK FORCE ON  
CLIMATE-RELATED  
FINANCIAL  
DISCLOSURES

プラスチック容器をパウチへ、段ボールを再利用可能なケースへ変更するなど、廃棄物を削減する取り組みを積極的に進めており、顧客の廃棄物削減にも貢献しています。



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

23

TCFD提言に基づく情報開示 機会事例の2点目になります。

プラスチック容器をパウチへ置き換える取り組みでは、これまで左上の黒いバケツのようなものにソルダーレジストを入れていましたが、パウチ状の形態でお客様のところへ届けるような取り組みも始めております。

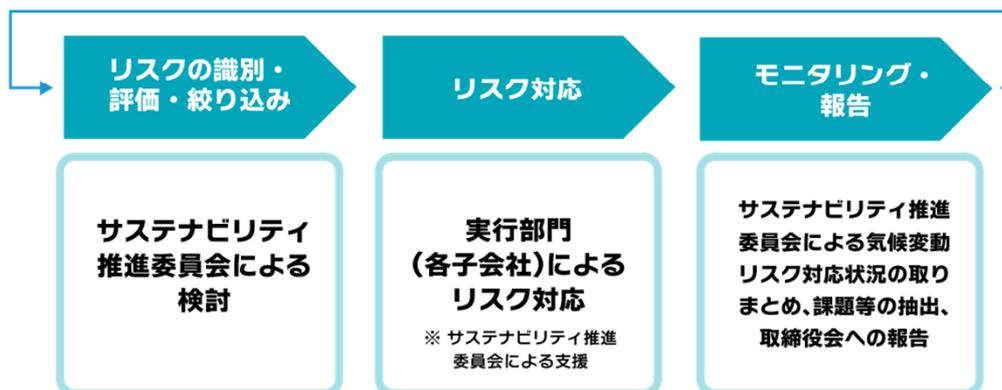
実は、この製品は10年以上前から当社で準備がありましたが、最近になってお客様からの要望も増えてきています。

顧客先での廃棄物削減にもこのような形で貢献していきたいと考えております。

## TCFD提言に基づく情報開示 リスク管理



サステナビリティ推進委員会にて識別・評価した気候変動リスクを実行部門にて対応し、継続してサステナビリティ推進委員会及び取締役会にてその対応を管理・モニタリングしてまいります。



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

24

TCFD提言に基づく情報開示 リスク管理の内容となります。  
リスク管理については、サステナビリティ推進委員会や取締役会を中心に進めていくと行くことを想定しております。

## TCFD提言に基づく情報開示 指標と目標 (1/2) TCFD

TASK FORCE ON  
CLIMATE-RELATED  
FINANCIAL  
DISCLOSURES

政府基準である 2050 年のカーボンニュートラル達成に向け、従来の消費電力の再エネ化に関する目標から CO<sub>2</sub> 排出量削減の取り組みを更に加速させます。



TCFD提言に基づく情報開示 指標と目標になります。

具体的な目標については、まず2030年に向けてグループ全体でCO<sub>2</sub>の排出を40%削減していきたいと考えております。

グループ内で個別の目標を立て、エレクトロニクス事業についてはカーボンニュートラルを、医療・医薬品事業については70%の削減を目標にしております。

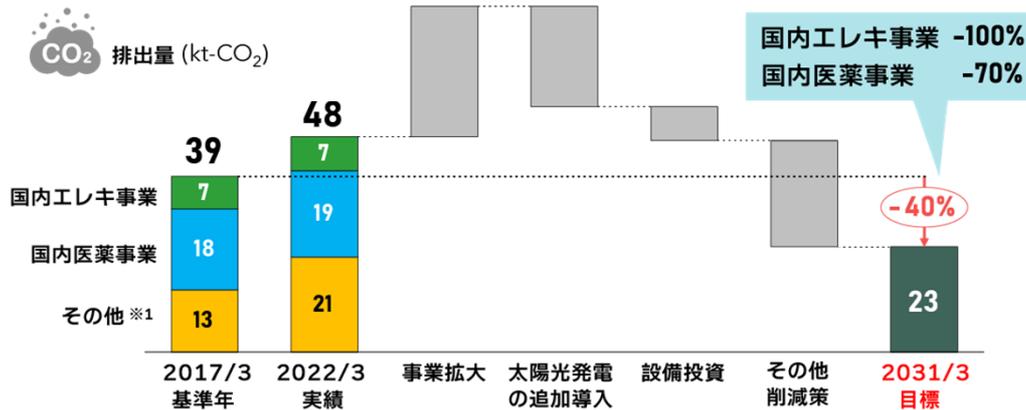
2050年においては、グループ全体でカーボンニュートラルを目指して参ります。従前よりご紹介させていただいておりますが、当社では水上太陽光発電を国内で14基ほど稼働しており、国内のエレクトロニクス事業が使用する電力は既にカバーされておりましたが、それとは少し違ったCO<sub>2</sub>の削減についてもゼロになるような体制を2030年までに構築していきたいと考えております。

## TCFD提言に基づく情報開示 指標と目標 (2/2) TCFD

TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

当社の強みを活かした施策により、CO<sub>2</sub> 排出量の削減を推進し、目標達成を目指します。

### 2030年に向けたCO<sub>2</sub> 排出量削減イメージ (Scope1+2)



※1 海外エレキ事業、国内その他事業を含む

Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス

26

TCFD提言に基づく情報開示 指標と目標の具体的な数値となります。具体的な数値としまして、基準年は2013年や2014年をえられるケースが多いと思われませんが、当社が取得できるデータの中で2017年を基準年とおきまして、2031年に向けてCO<sub>2</sub>削減を目指します。当社の場合は、事業拡大も想定しておりますのでその分増えてしまう部分もありますが、それを上回るような削減策を講じて目標を達成していきたいと考えております。



Copyright © TAIYO HOLDINGS CO., LTD. All Right Reserved.

太陽ホールディングス株式会社2023年3月期第2四半期決算説明会の内容は以上となります。  
ご清聴いただき誠にありがとうございました。

## Q&A

### ご質問

### 回答

エ  
レ  
キ

- リジッド部材が低調であった要因と今後の回復の見通しは。  
リジッド部材の低調は主な販売先の中国市場が低調であることに起因しております。ロックダウンによる生産活動が遅延とその後の需要の冷え込みにより販売数量が減少し、当社としては後者のほうが影響大きいと考えております。今後の回復の見通しは、中国の経済が活発になることで復調すると考えております。その時期は当社では判断できないため、情報収集に努めていきたいと考えております。
- リジッド高機能の白色DFの2Qの売上高の規模感ほどの程度か。  
販売数量は前期同环比、前四半期比ともに数割減少しております。
- 車載向け製品が低調であるのはどのような要因か。  
世界的には復調している傾向と考えておりますが、中国が本格的に復調している状況ではなく車載向け製品が低調であると考えております。
- PKG部材が好調であった要因と今後の見通しは。  
前期のような大きな成長はないもののサーバー向け製品が堅調に推移しております。一方、PC・タブレット向けの製品に関しては成長が減速していると考えております。今後現状の成長率は維持できず成長が減速すると考えておりますが、サーバー向け製品が堅調を維持していくと考えております。
- 中国のPKG市場の拡大やPKG技術の向上の動向に変化はあるのか。  
中国で生産しているPKGは、汎用PKGが主流であると認識しております。しかし、今後確実に成長市場となるため、この市場でのシェアを取りこぼさないことで将来の高機能PKGにシフトした際に当社の影響力を保持できればと考えております。
- チップレットコンソーシアムへの参画は、業績にどのように寄与するものなのか。  
本コンソーシアムは、次世代PKGに対応できるよう取り組んでいる施策になります。旧世代PKGが次世代PKGに置き換わるため、PKG部材が急激に成長するような施策ではないと考えております。

## Q&A

### ご質問

### 回答

#### エレクトロニクス

- マクロ経済の影響を抜いて考えたとき今後業績に寄与する新たな取り組みはあるか。

PKG部材：中国市場での成長を見込んでおります。  
 リジッド高機能：Mini LEDディスプレイに採用された白色DFが新たな用途に採用されることで、現在の市場以上の成長が期待できます。  
 フレキ・ビルドアップ：現在検討している案件が採用され始めれば業績に大きく貢献すると考えております。

- 業績予想を据え置いているが為替の影響とリジッド部材の販売数減少をどのように見込んでいるのか

業績予想の為替レートは変更しておりませんが、円安基調であるため増収増益に寄与すると想定しております。その増収増益分をリジッド部材の販売数量の減少に伴う減収減益が打ち消し、通期業績予想通りに着地する見込みです。

- 売上高増収に対して営業利益率が減益の要因は何か。

主な要因としては製造受託事業はプロダクトミックスの変化により増収となりましたが、生産する製品項目の影響により営業利益が変化しております。

- 業績予想に対して営業利益が上振れているが費用面での今後の見通しは。

下期は業績予想で赤字想定となっておりますが、下期においても黒字が達成できるよう経費削減を中心として施策を実施してまいります。

#### 医薬

- 23年3月期はどの程度の売上高を想定しているのか。

製造受託事業においては新規製造受託の受注に伴い着実に売上高が増加していくと考えております。  
 製造販売事業においては毎年薬価改定の影響を受けるので適用拡大等で製品価値を高める取り組みを続け売上高を維持しつつ利益を確保していきたいと考えております。

- 数年後の再生医療、遺伝子治療の収益貢献はどの程度を想定しているのか。

数年後では、従来の低分子の固形剤か注射剤の成長を期待しており、新しい再生医療や遺伝子治療は、まだ大きな規模感ではないと想定しております。この2つの事業は10年程度の期間で成長していく事業と考えており、引き続き前向きに取り組んでまいります。